

青年実業家

内田魯庵

青空文庫

「全^{まる}でお咄^{はなし}にならんサ。外債募集だの鉄道国有だのと一つの問題を五年も六年も担^かぎ廻^{まわ}る先生の揃^{そろ}つてる経済界だもの。近ごろ君、経済書の売行^{うりぎやう}が好^いいさうだが、何の事は無い、盗^{ぬす}賊^{びと}を見て縄^なを縛^なふやうなもんだ。戦争以来実業が勃興^{はつこう}したといふのが間違^{まちが}つてる。何が勃興^{はつこう}してゐるもんか、更に進歩しないと云つても宜^いしい、畢竟^{けいけい}空^{から}株^{かぶ}の空相場^{くうさうば}が到^{いた}る処^{ところ}に行はれたので一時に事業が起つたやうに見えたが、本^もとくが空^{すき}腹^{はら}に酒を飲^のんだやうなものでグデンく騒^{さわ}ぎ立つた挙句^{あげく}が嘔吐^{へど}を吐^はいて了^{しま}うとヘタく弱^{よわ}つて医者^{いしや}の厄介^{えきがい}になると同様だ。我々の会社を見給^{みたま}へ、重役^{じゆうやく}様がボ^ちーナスを少^ちとでも余計^{よけい}握^{つか}まうといふ外^{ほか}には何の考^{こう}も無い。元^い来^{きた}実業界^{じつぎやう}の先輩^{せんぱい}と威張^{いば}つてる奴^{やつ}らは昔^{むかし}からの素町^{すぢやう}人^{にん}か、成上^{なりあがり}りの大山師^{おほやまし}か、濡手^{ぬで}で粟^{あわ}の御用商人^{ごようしやうじん}か、役人^{やくにん}の古手^{ふるで}の天下^{てんか}つたのか、斯^かういふ連中^{れんちゆう}のお揃^{そろ}ひだから真^まの文明流^{ぶんめいりゆう}のビジネ^スを知^しつてる者は無い。投機^{とうき}や株^{かぶ}の売買^{ばいばう}も商売^{しやうばい}の一つだから行^やつても宜^いいが、最^もう些^ちと道徳^{だうとく}を重^{おも}んじて呉^くれないと困^こる、昔から云^いつてる事^{こと}つてすが日本人^{にっぽんじん}は公共思想^{こうきしき}が乏^{ひそ}しくて商売^{しやうばい}をして他^{ひと}を倒^{たお}すことばかり考^{かんが}へて商売^{しやうばい}其物^{そのもの}を發達^{はつたつ}せしめやうといふ考^{かんが}へは無い。同商売^{どうしやうばい}の者は成^なるべくトラス^{トラス}ト流^{トリス}に合同^{ごうどう}して大資本^{だいちほん}を作^{つく}つて大きな商売^{しやうばい}をして貰^{もら}ひたいのだが、日本人^{にっぽんじん}同志^{どうし}の間^{なか}では小^けな利慾^{りよく}心^{しん}が邪魔^{じゃま}をするから逆^{さか}も相談^{さうだん}

が纏まらない。現に僕が関係してゐる会社では三四の同業者があるから合同して大きな工場を建てたら如何だといふ意見を持出した処が、此方の会社が十分優勢を占めてゐるのに以ての外だと排斥されて了つた。亜米利加では大資本家が小資本家を吸収して利益を壟断すると云つてトラストの弊を頻りに論じてゐるが日本では先づ当分トラストが行はれるほど進歩しない。一緒に大きく儲けやうとはしないで他人に儲けられまい儲けられまいとケチくしてゐる。裏店根性だ……

「併し頭の禿げた連中は仕方が無いとして若い者は奈何かと云ふと、矢張駄目だ。血氣盛んな奴が懷中手をして濡手で粟の工風ばかりする老人連の真似をしたがる。実業家といふと聞えが好いが近頃の奴は羽織ゴロの方に近い。立派な新教育を受けた若い連中までが斯様な怪しからぬ所為をしたがるから困る。例へば商業学校、あれが少しも役に立ちませんナ。元来ビジネスは實地に経験を積んで然る後覚えられるもので、学校の教場で教師の講義を聞いたつて解るもんぢやアない。銀行の取引実務とか手形交換の実習とか云ふものなら昔しの商法講習所位のを置けば沢山だ。経済学や法律学なら大学で、教へてゐる、私立の専門学校もある。實際また商業学校で教へる位の片端を嚙つたつて何の役に立つもんですか、無駄な事つた。此金の足りない中で、殊に経費少ない文部省が

這般な無用の学校に錢を棄てるのは馬鹿げてる。第一貴処、困る事には此役に立たない商業学校の卒業生が学校を出れば一廉な商業家になつた氣である、高等商業学校を初めてして全国に商業学校が各府県に一つ宛ある、毎年卒業生が千人も出るでせう。百人に一人位真摯なものもあるかも知れないが、大抵は卒業すると直ぐ氣障な扮装をして新聞受売の經濟論や株屋の口吻をしたがる。先輩の對手にならないのは仕方が無いが後継者の若い者までが株屋や御用商人の真似をしたがるから困る。其証拠には貴下、斯ういふ学校出身者で細くとも自分で事業を初めた人がありますか。多い中には有るかも知れないが、先づ学校を出ると会社とか銀行とかへ入つて端多月給でも貰つて氣樂に飯の喰へる工風をする。校長初め教師までが其方を奨励する。実業家達は小才の利く調法な男を廉く傭使へるのだから徳用向きの仕入物を買倒す氣で居る。然るに高い學費を何年も費ひ込んだ商業学者先生達は会社か銀行の帳付にでもなると直ぐ実業家を氣取つて、極愚劣な奴は安芸妓に陥り込んで無けなしの金を入上げる、些と生意氣な奴は書卓附屬の器械であるのを忘れて一知半解の金融論をする、少しばかりのボーナスを貰うと炭鋤とか日鉄とか直ぐ手を出したがる、事業其物に忠実なものは殆ど無い――

「カラキシ何も彼もお咄になりませんや。我々のやうに少と理窟でも捻らうといふ奴は繼

子扱ひされてテンで相手にされないのだから仕様が無いのサ。金を儲けるといふが何も難かしい事は無い。正実な道を踏んで立派に金儲けが出来る。何ツ——教へて呉れ？ 教へてやらんでもない、正直に真面目に金の儲かる道はいくらもある。其内ユツクリ話して聞かせやう。今の実業家連中は情ない哉 22 が4といふ事を御存じない。22 が6と算盤を弾き出すから景気が好き——に見えても実は初めから失敗しておるんだ。何だ——解らないと。矢張君も22 が6の連中だらう——はツはツはツ」と故と磊落らしく笑ひながら口の裡にて、（実は自分にも解らない！）

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆75 商」作品社

1989（平成元）年1月25日第1刷発行

底本の親本：「社会百面相 上巻」岩波文庫、岩波書店

1953（昭和28）年2月

入力：土屋隆

校正：noriko saito

2006年10月17日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

青年実業家

内田魯庵

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>